アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル　愛南町出身のkikuさんが綴るふるさとエッセイ

## ーあいなん音故地新ー　「年月を越えて(前回のつづき)」

小学生の頃、剣道の稽古は日曜以外は毎日朝6時から8時まで。2時間ほどやったけど、そりゃもう本当に厳しいものやった。入会したときに両親が他の父兄から"つらくなるけん稽古は見に来んほうがええよ。"と助言されたくらい。

厳しさはあっても苦しくて辛いっていう記憶はまったくなくて、ただ、強くなりたい、勝ちたい、それだけやった。勝つと嬉しかったし、両親や先生の喜ぶ姿を見ることもできた。先生は感情に左右されることなくいつも平等で同じだけ愛情を注いでくれた。そんな先生を両親は心から信頼しとった。あたしは子どもながらにそれを感じとって、先生を信じ、尊敬しとったんやと思う。やからこそ手にすることができた結果や経験がある。

子どもの頃はその人の人間性なんてわからんし、見極める力もない。その分、大人の言動をよく見て、よく感じ、よく理解する。先生と両親の関係性がすごく影響するし、それはそのまま教育の質に繋がる。どちらか一方が秀でとっても成り立たん。素晴らしい先生と両親のもとで毎日稽古に励めたことを今、改めて幸せに思う。　（テノヒラkiku）

あいなん逸品図鑑 その⑭

## 逸品図鑑「キハダマグロ」

漁師　藤田 一郎（いちろう）さん（中浦）

愛媛CATV動画

▲藤田一郎さんがこの日釣り上げた40kgを超えるキハダマグロ。

11年前に消防職員を早期退職し、キハダマグロ釣りをしている藤田一郎（いちろう）さん。この日は午前２時半に出港し、約１時間半かけて沖ノ島沖の漁場に移動して昼過ぎまで漁を行いました。釣りの対象としてキハダマグロを選んだ理由は、「通年で価格が安定している数少ない魚」だからだと言います。

キハダマグロが釣れる時期は主に４月から11月頃で、特に５月が盛漁期です。「その時期は個体はそれほど大きくないが、数がたくさん釣れる」と話し、「とにかく体力が要る仕事。釣りの際に餌として用いるソウダガツオを確保するのも大変」と漁の苦労に触れます。

藤田さんのおすすめの食べ方は”漬け焼き”で、独自のタレに漬けて黒コショウをかけ、軽く焼いて食べると美味しいそうです。「一回でたくさん釣るのも魅力だが、漁に出たら必ず釣るというように、平均的に釣っていくのが理想」と意気込みました。